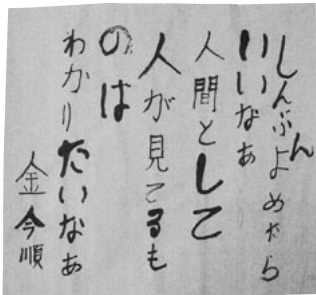


おも ひ いちにち 思いう、一日もないもん。死にたーい死にたい思て、生きてきたけど、死ぬ年なって、やっと自分がな、あーあ、長生きしとってよかった、思たら、涙がぼろっと出て…”と話されて、そのあと亡くなられた。

夫から「その年になって、字をおぼえて何に使うの？」と問われた金今順(キム ゴンジュン)さんは、夫の介護手続きの時に学んだ文字を活かした。そして、最近こんな文章を書かれた。

“しんぶん よめたらいいなあ 人間として 人が見てるものは わかりたいなあ”

2003年から始まった「国連識字の10年」(用語解説参照)では、多文化の視点をも重ねて、ともに歴史を紡ぎあう日常でありたいと思う。



用語解説

【水平社宣言】

1922(大正11)年の「全国水平社」創立大会で採択された創立宣言。「全国に散在する吾が特殊部落民よ団結せよ」に始まり、「人の世に熱あれ、人間に光あれ」で結ばれ、日本最初の人権宣言と言われる。

【国連識字の10年】

国際連合が「万人のための教育」をめざして2001(平成13)年の第56回総会において決議した。期間は2003(平成15)年からの10年間で、世界の成人、特に女性の識字率を50%引き上げることなどを目標としている。

人物紹介

知りあって、助けあって、根っこでつながる



武 りり子さん

1996年11月、高校一年生の長男が文化祭の日に、他校の生徒に暴行を受け、それが原因で亡くなった。

「加害者が少年ということで、警察からも家庭裁判所からも事件や相手のことを、何一つ教えてもらえませんでした」。そんな状況のなかで事件の真実や被害者の思いを伝えようと、夫と一緒にマスコミに情報を提供し続けた。

少年による凶悪犯罪が社会問題化したことも手伝って、マスコミも取り上げるようになり、少年犯罪の被害当事者同士が知りあうようになった。そして、1997年12月に4家族が大阪に集い、話しあうなかから、「少年犯罪被害当事者の会」が生まれた。被害者の家族が捜査の状況や審判内容の情報開示を受けられるようにする活動などを進め、現在は、30家族までに広がった。「同じ思いを持つ被害者の家族が励ましあい、手探りで進めてきました。知りあって、根っこでつながったのです」

絶望から立ち上がり、そんな活動の中心となることができたのは、何よりも、地域の人たちの助けや支えがあったから。「事件後、怒りをぶつけるところがなく、家のなかは荒んだ状態でした。私もこわい顔になっていたと思います。そんな時でも、近所の誰かが声をかけてくれました。料理を持ってきてくれたり、話を聞いてくれたり…。息子の中学時代の友人たちも毎日お線香をあげに来てくれて、妹や弟と遊んでくれました」と目を細める。

「身近で接していた近所の人に助けられました。『助けて』と正直に言えば、助けてくれる人が地域にたくさんいました。『悪い人ばかりではない』と気づいて、やさしい顔になれたのもそのおかげです」。いろいろな思いをもつ犯罪の被害者とその家族が、気おくれせず地域で普通に暮らせることを願って、地域とのかかわりの大切さを訴え続ける。